

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第89回本部会議 記録

日 時／令和4年1月7日（金）

15：00～15：30

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第89回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

それでは、資料1をご覧ください。主な指標の状況についてです。昨日時点ですが、多くの指標で、レベル2への移行の指標を下回っておりますけれども、前の週よりも増加しているという状況です。全道、札幌市とも感染者数が増加しております。全道は、10万人あたり新規感染者数は3.9人、札幌市は5.6人ですが、感染経路不明割合についても増加しているという状況になります。病床使用率ですが、全道で4.5%、また、札幌市で6.1%となっています。

続いて、スライド2です。各圏域毎の状況をみてみますと、札幌市では、引き続き、多くの感染者が確認されておりますが、その他圏域についても増加傾向にあるということです。特に、札幌市を除きます道央圏、十勝圏、オホーツク圏におきまして、新規感染者数のほか、病床使用率や療養者数などが増加しているという状況になります。

続いて、総評です。まず、医療提供体制ですが、療養者数、入院患者数は先週との比較で増加が続いておりますが、病床使用率は4.5%となっております。

感染状況ですが、新規感染者数は23日連続で増加し、10万人あたり3.9人となりました。感染経路不明割合や30代以下の新規感染者数も増加しています。1月4日、道内で初めてオミクロン株の感染事例が発生し、1月7日には、複数の道立保健所管内で11例のオミクロン株感染事例が確認されております。この中には市中での感染が疑われる事例も認められるという状況です。

今後の対策です。国内におけますオミクロン株の広がりや年末年始の人の移動の活発化の影響を踏まえ、道内でも今後の感染拡大が想定されますことから、冬期間におけます感染拡大防止に向けて、新年会や成人式などの場面におけます感染防止行動の実践等について呼びかけてまいります。

海外や道外に滞在歴のある患者及び感染経路不明の患者につきましては、原則、すべての検体のゲノム解析を実施いたしますとともに、デルタ株スクリーニング検査も併せて実施しております。また、国の取扱いに基づきまして、オミクロン株スクリーニング検査を速やかに実施できるよう準備を進めてまいります。

経口治療薬の提供の支援、無料検査の実施など必要な対応を進めますほか、国の通知に基づきまして、オミクロン株による患者は症状に応じて入院や宿泊療養、自宅療養といたしますとともに、濃厚接触者は自宅療養とし、デルタ株と同様の取扱いとして、進めてまいります。

国の動向等を注視し、医療従事者や高齢者等への接種の前倒しを含め、ワクチンの3回目接種の円滑な実施に向けた市町村への支援に取り組んでまいります。

次に、スライド4以降について、何点か補足して説明いたします。スライド16をご覧い

ただければと思います。全道におけるオミクロン株に係るゲノム解析の状況についてでございますが、11月1日から昨日までの陽性者は935人であり、同期間に360の検体につきまして、ゲノム解析を行った結果、1件のオミクロン株を確認しているところでございますけれども、先ほど総評でも述べましたとおり、本日、ゲノム解析の結果、11件のオミクロン株感染事例を新たに確認しております、道内で合計12事例となっているところでございます。

続いてワクチンの関係です。道内では、1回目の接種率が8割を超え、2回目接種につきましても約79%と8割に迫る接種率となっております。また、3回目接種については、VRSベースですが、約3万人の方が接種を終えられているという状況でございます。

続いて、追加接種の関係でございますけれども、まず、ワクチンについては、1月5日に、モデルナ社製ワクチン3回目第1クール約72万回分の道内各市町村への配分を決定いたしましたして、市町村へお知らせしたところでございます。また、昨年12月24日に、国がモデルナ社製ワクチンの追加購入を公表しておりますが、都道府県ごとの配分量や時期等は未定となっております。なお、この追加購入分を除きましても、初回接種の残余、未使用のワクチンを含め、2月までに道内で約251万回分が確保されているという状況でございます。道といたしましては、1月4日の総理の年頭会見で高齢者接種の更なる前倒しに言及されておりますことから、今後の動向を注視いたしますとともに、市町村と連携し、円滑な接種が進むよう取り組んでまいります。

その他のスライドでございますけれども、本日の説明に関しますデータを載せておりますので、のちほどご覧いただければと思います。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております山口感染症担当部長から、ご説明願います。

【山口札幌市感染症担当部長】

それでは、資料2に基づきまして、札幌市の感染状況についてご説明をいたします。それでは、最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計につきましては、昨日1月6日時点で109人でございます。そのうちリンクなしの人数は43人で割合は39.4%となっております。人口10万人当たりの新規感染者数は5.56人となっております。本日の1日あたりの感染者数も40人を超えるなど、増加傾向にある状況でございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。札幌市内の入院患者数の状況を示したグラフでございます。昨日時点の入院患者数でございます。これは黄色の棒グラフでございますが、44人でございます。重症患者の赤の折れ線グラフでございますが、これはゼロでありまして、現時点での医療の負荷は抑えられておりますけれども、今後の患者数の増加に、また、入院患者数の増加に警戒が必要な状況と考えてございます。

それでは、最後のスライドをご覧ください。これは検査数のスライドでございます。直近の1週間の検査件数でございますが、4,948件となっております。陽性率でございますが、昨日時点で2.2%と増加傾向にはありますけれども、まだ5%未満の低い水準での推移となっております。国内各地では感染力が強いとされておりますオミクロン株による急速な感染拡大が見られている状況でございます。札幌市におきましても、今週1月4日には道内1例目となりますオミクロン株の患者を確認してございます。また、新規感染者数も増加傾向にあることから、強い危機感を持ち、疫学調査や検査などの体制強化に取り組んでいるところでございます。

年末年始の人の動き、人流が活発になるということから、年明けにつきましては、家庭や職場における感染の広がりが懸念され、また、新年会等の場面においては、感染リスクが高まることから、感染拡大を抑えるためにも、少しでも体調が悪い場合は、外出を控えるとともに、早めの医療機関への受診ですとか、新型コロナの検査を受けていただくようなことが重要であるというふうに考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、道内におけるオミクロン株の感染確認を踏まえ、感染症の専門家であります道立衛生研究所の藤谷感染症センター長から、これまでに判明しているオミクロン株の知見等について、ご説明願います。

【藤谷感染症センター長】

それでは、資料3に基づきまして、ご説明させていただきます。本日の説明は現時点におけます科学的な知見や国の知見に基づいたものであるということをご承知おきください。

次のスライドをお願いいたします。現在の発生状況になりますが、1月6日現在、世界ではほぼ全世界的に蔓延していると報告がされております。1月5日現在、国内の水際関係症例では、934例、そして、水際関係以外の症例は、546例と、それより2日経っておりますので、日に日に症例数は報告が増えている状況です。

次のスライドをお願いいたします。こちらはオミクロン株のウイルスの構造を示したシェーマになります。ポイントとなりますのは、この青い外側の突起物になりまして、スパイク蛋白と呼ばれるものになります。こちらは細胞の中にウイルスが侵入する際に細胞の受容体というところにくっつく突起物ということになりますが、いわゆる変異株と言われるものに関しましては、この遺伝子の変化によって、このスパイク蛋白の形が変わってしまっているものを主に変異株と我々は呼んでいるわけです。今回のオミクロン株に関しましては、このスパイク蛋白の遺伝子が30カ所以上という非常に多くの変異が認められまして、それによってこのスパイク蛋白が今までとは大きく異なる形になっているものであるという報告がされています。そのため、この蛋白によって、細胞に侵入するというところが、侵入しやすくなっているというような形になっておりまして、それによって感染性が上昇しているというふうに言われています。また、この抗体と呼ばれる免疫の要になるものですが、一度感染しますと身体の中で抗体というものが作られまして、同じようなウイルスが入ってきても抗体によって身体の外に排除されるという免疫機構が我々にはございます。しかし、この抗体がくっつきにくくなってしまっている。今まで入ったことがないウイルスであるというふうに認識されてしまいますので、一度感染してもまた再感染が起こってしまう。また、スパイク蛋白に基づいて、ワクチンを打ちますけれども、ワクチンは抗体を作るという薬になりますので、今までのワクチンとは異なる効果が出てしまって、効果が下がってしまう。また、抗体医薬というものが2つ特例承認されておりますが、こちらの方も今までの株に対する抗体治療ですので、新たなこのオミクロン株に対する抗体ということに関しましては、効果が下がってしまうというようなことが認められています。

次のスライドをお願いします。オミクロン株に関しまして、この6つの視点からもう少しご説明をさせていただきます。次のスライドをお願いいたします。まず、感染性・伝播性に関しましては、報道でもありますように、南アフリカ、欧米等で急激な患者数の増加が認められております。また、倍加時間と申しまして、患者数が何日くらいで2倍になるかというものを表す単位になりますけれども、これが今までの株よりも短縮して、2、3

日ごとに倍々になっていくというような報告がされております。また、多くの国で段々オミクロン株への置き換わりが始まっているというところになりますので、感染性は高いものであるというふうに考えられております。また、潜伏期間と申しまして、ウイルスが感染してから発症、つまり症状が出てくるまでの間の期間を潜伏期間と申しますが、デルタ株に比べまして大きく短縮している傾向があります。最近の知見では3日程度で症状が出てくる。デルタは平均的には5日くらいでしたけれども、3日くらいで出てくるというようなことが報告されてきております。ただし、これらの知見に関しましては、その国によって、その免疫の状況、ワクチンの接種状況等も異なりますし、また、感染予防行動、つまりマスクをしていたりとか、三密を避ける行動をするというような行動が国によって違いますので、必ずしもこれが全て日本に当てはまるかどうかというのは、今後の知見が待たれるところであります。

次のスライドをお願いいたします。次は再感染に関しましてですが、先ほど申しましたように、一度感染していてもまたこのオミクロン株に感染する可能性があるということでございます。そして、デルタ株と比較しましても、オミクロン株は約5倍再感染しやすいというデータが出てきております。欧米での急激な感染者の増加は、これが影響しているのではないかとというようなことが考えられております。

次のスライドをお願いいたします。続いて、ワクチン効果になります。非常に大きく興味のあるところであると思っておりますが、現在、イギリスから興味深い知見が出てきております。ワクチンを2回接種したあと25週間、だいたい6ヶ月くらいになりますが、これくらい経過しますと、ほぼオミクロン株への発症予防の効果は低いということが示されております。ただ、3回目を接種することによって、この発症予防効果が高まる可能性というデータも出てきております。ただ、まだまだ短期間でのデータになりますので、これから中長期的には効果がどうなるのかということは、まだまだこれからの知見が待たれるところです。今度は発症予防ではなく、入院を予防する効果というところに注目してみますと、ワクチン2回接種したあとであれば、100%ではないにしても、50から70%は入院予防効果があるだろう。そして、3回目を接種して2週間ぐらいたった後では、88%というような報告も出ております。つまり、症状が出たとしても入院までには至らないというような傾向があるのではないかとというような報告が出てきておりますので、このようなことが事実であれば、医療ひっ迫等の回避が期待されるところであります。

次のスライドをお願いします。こちらは今お話しした内容をグラフ、主に科学的なデータに基づいたイギリスからの報告ということになります。縦軸が発症予防に対するワクチン効果です。横軸に関しましては、ファイザー社のワクチンのデータになりますが、1回目、2回目を打ってからどれくらい、何週間経ったかというような、横軸は時間軸になります。青い矢印で示しましたように、この丸いのがオミクロンになりますが、1回目、2回目は25週間くらい経つとほぼワクチン効果は乏しいのですが、3回目を打つと赤い矢印のように、だいたい70%くらいまで上昇するというようなデータが出てきております。

次のスライドをお願いします。抗体医薬品の効果になります。重症予防というところで、2つの薬剤が現在、特例承認されておりますけれども、試験管レベルでの研究になりますが、カシリビマブ・イムデビマブというロナプリーブというお薬に関しましては、オミクロン株の分離ウイルスに対しまして、効果が乏しいのではないかと可能性が示唆されております。つまり、オミクロン株の感染例であれば、このカシリビマブ・イムデビマブという薬の効果は望めないかもしれないというデータが出てきております。ただし、もう1つの薬剤でありますソトロビマブ、ゼビュティというお薬に関しましては、試験管レベルではありますが、効果はありそうだと、中和活性は維持出来ているだろうという報告がありますので、これからの更なる知見が待たれるところです。

次のスライドをお願いいたします。さらに一番重要なのがどれだけ重症化するかというポイントになりますが、各国のデータから出ましても、デルタ株と比較して重症化しにくいということが様々な報道等でもあるかと思えます。これもイギリスからのデータになりますが、デルタ株と比較しましても、オミクロン株は感染例の入院リスクが3分の1であったというような報告が最近出てきておりますので、まだこれからさらなる蓄積が必要ではありますが、このような意味で医療のひっ迫というところに少し、ひっ迫が防げるかもしれないというようなデータが出てきております。ただし、注意点が2点ほどございます。1つはこのオミクロン株に感染しているのが主に若年者であるということになりますので、元々若年者は重症化しにくい傾向があります。ですので、まだまだ入院リスクが低いと断定はできませんので、今後の知見を待たねばなりません。また、重症化ですとか死亡という転帰を確認するためには時間が掛かります。ですので、まだまだこれからどうなっていくのかも見なければならぬというところになります。

次のスライドをお願いします。最後、感染予防になりますが、現時点でオミクロン株だからという理由で何かしら感染対策を変えねばならないという知見はまだ出ておりません。ですので、基本的な、マスクの着用、手指衛生、換気の徹底等を引き続いて徹底していくということが重要であるということが示されております。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、「冬期間における感染拡大防止に向けて」につきまして、関係部長から順次説明をお願いいたします。

まず、総合政策部長、お願いします。

【濱坂総合政策部長】

それでは、資料4「冬期間における感染拡大防止に向けて」をご覧いただきたいと思えます。道内におけるオミクロン株の感染の確認、国内でのオミクロン株の急速な広がりなどを踏まえ、新たに冬期間における感染拡大防止に向けて、道民の皆様に対し、感染防止行動の実践について呼びかけていきたいと考えております。

スライド1をお願いします。呼びかけの内容につきましては、これまでの「年末年始における感染拡大防止に向けて」をベースに、このたびの道内でのオミクロン株の感染確認を踏まえ、◆の上から2点目でございます、症状のある方、いつもと体調が違うと感じた方は、外出や移動を控え、医療機関を受診することという呼びかけを行うとともに、ワクチン接種の有無にかかわらず、オミクロン株の感染拡大により、感染に不安を感じる無症状の方は検査を受けていただくことを要請をいたします。なお、この検査につきましては、後ほど、新型コロナウイルス感染症対策監から説明がございました。

また、広島県、山口県、沖縄県に対し、まん延防止等重点措置が適用される見込みであることを踏まえ、二つ目の枠の◆の3点目でございますが、まん延防止等重点措置の対象県への不要不急の移動は、極力控えていただくよう呼びかけることといたしたいと考えてございます。

次にお手元にお配りしている、資料5の主な意見をご覧いただきたいと思えます。ただいまご説明いたしました「冬期間における感染拡大防止に向けて」につきましては、有識者及び専門家のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせをしているところでございますが、有識者及び専門家の皆様からは、概ね妥当であるというご意見をいただいております。ご紹介させていただきます。（1-②）今後若い人から高齢者に感染が広がること、陽性者数自体が増えれば重症者も増えてくることから、医療機関連携体

制と病床の確保、疫学調査実施のための人員の確保、迅速なワクチン接種が望まれる。(1-③) オミクロン株の感染拡大防止のためにも、道民への強力な注意喚起が必要といったご意見をいただいております。

次に、市町村、関係団体からも、概ね妥当であるというご意見をいただきましたが、2頁でございます。(2-②) 他県でのまん延防止等重点措置の適用や道内でのオミクロン株の感染確認を踏まえた取組を早急に行うことに賛成。(2-④) 道民に対し、冷静かつ効果的な対応の呼びかけが重要であり、実効性ある行動を促す効果的な情報提供をお願いしたいなどというご意見をいただいたところでございます。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、新型コロナウイルス感染症対策監、お願いします。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

検査の要請の関係でございます。資料4の別紙に戻っていただければと思いますけれども、本日、複数の道立保健所管内でオミクロン株感染事例が確認され、市中感染が疑われる事例も認められますことから、ワクチン接種の有無に関わらず、オミクロン株の感染拡大により感染に不安を感じる無症状の方であって、道内にお住まいの道民の方々を対象に、特措法第24条第9項に基づき、検査を受けていただくことを要請したいと考えてございます。なお、この要請に応じた方が受ける検査費用は無料となります。特に、ワクチン接種を受けられない方や、海外や道外、また、オミクロン株感染拡大地域に行ったなどの行動歴があるなど、不安な方は、検査を受けていただくようお願いしたいと考えてございます。期間は、明日1月8日から2月7日までの31日間を考えてございます。なお、症状のある方、いつもと体調が違ふと感じた方は、外出や移動を控え、かかりつけ医や診療・検査医療機関を受診するとの呼びかけも併せて行ってまいりたいと考えてございます。

私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

ただいま説明のありました「冬期間における感染拡大防止に向けて」について、決定いたしましたと考えておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、そのように決定します。

その他、各部・振興局から、順次発言をお願いします。

まず、教育長からお願いします。

【倉本教育長】

資料6をご覧ください。道内の成人式については、1月8日の明日から10日までの3日間に139市町村で実施をされ、特に1月9日は、131市町村と実施する市町村が多くございます。札幌市、函館市、帯広市など大都市での実施が予定をされております。このため、道教委から、12月6日と1月5日、また本日にもあらためまして感染拡大予防ガイドラインと北海道スタイルの徹底、健康観察やPCR検査、抗原検査キットの活用、また、式典後の飲食を控えるよう周知することなどにつきまして、各市町村に要請をいたしております、各市町村におきましても、事前の健康観察や、会場内の換気、手指消毒、検温の徹底、式典後の飲食への注意喚起を行うなど、高い警戒感を持って実施に臨むこととしております。道教委いたしまして、引き続き、関係部局、また市町村とも連携いたしまして、感染拡大防止に努めてまいります。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局等からご発言はございませんか。なければ、本部長から発言をお願いします。

【本部長（知事）】

全国的に新規感染者数が急速に増加をしています。広島県、山口県、沖縄県において、本日、まん延防止等重点措置が適用される見込みであります。国の専門家からは既にデルタ株からオミクロン株への置き換わりが進んでいる地域もあること、今後、感染拡大が急速に進むおそれがあることが指摘されています。

こうした中、本日の道内新規感染者数であります。94人となりました。90人を超えるのは、9月16日以来であります。道内の新規感染者数も増加が続いています。また、今週4日に、道内で初めてオミクロン株の感染事例が確認されたところでありますが、さらに本日、複数の道立保健所管内で、11人の感染、そして、市中での感染と見られる事例も確認されました。

感染者数の増加に伴い、入院患者数も増加をしておりますが、医療機関の皆様のご協力によりまして、道では、2,028床の病床を確保しており、病床使用率は4.5%の水準と、医療提供体制が直ちにひっ迫するという状況ではありません。しかしながら、今後のオミクロン株の広がりによって、感染者数が急速に増加すれば、医療提供体制が急速にひっ迫するおそれがあることから、感染拡大への高い警戒感を持って対応していかなければなりません。

まず、症状のある方、いつもと少しでも体調が違うと感じる方には、積極的に検査を受けていただくように周知をしてください。また、無症状の方に対しても、オミクロン株の感染拡大地域に行っていた場合など、感染に不安を感じる場合、検査を受けていただくように要請をいたします。先ほど説明がありましたとおり、オミクロン株の感染拡大に伴い、明日から2月7日までの1ヶ月間、ワクチン接種の有無にかかわらず無料で受けられる検査、こちらも実施をいたしますので、道民の皆様には、是非ご活用いただきたいと考えます。

また、オミクロン株のスクリーニング検査、こちらを保健所設置市と連携し、道内各地において、速やかに実施できるよう準備を進めます。引き続き、経口治療薬の提供支援に取り組んでいきます。そして、複数の地域でオミクロン株による感染が確認されたことなどを踏まえ、入院や、宿泊療養、自宅療養の取扱いを、デルタ株と同様の対応とすることとします。

道民の皆様に対しても、感染拡大の防止に向けた協力の呼びかけを行ってまいります。先ほど報告にもあったとおり、オミクロン株であっても、基本的で適切な感染対策、引き続き有効であるということでもあります。道民の皆様におかれては、あらためて、基本的な感染防止行動の実践をお願いをいたします。

また、今週末の3連休は、道内の多くの市町村で成人式が行われます。特に、成人式前後では、できる限り飲食を控えること、仮に飲食を行う場合には、認証店など、感染防止を徹底しているお店を選び、短時間で、大声を出さず、深酒をせず、会話の時はマスクを着用することなどについて、市町村と連携をして呼びかけを行ってまいります。

さらに、広島県、山口県、沖縄県へのまん延防止等重点措置の適用を踏まえ、広島県、山口県、沖縄県との不要不急の往来は、極力控えていただくよう、お願いをいたします。

全国的な感染拡大、そして、道内におけるオミクロン株の感染確認などを踏まえて、今

後の感染拡大防止に向けた、こうした対応について、各本部員において、強い危機感を持って、万全の体制で取り組むように指示をいたします。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のありましたことについて、各本部員は必要な対応をお願いします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第89回本部会議を終了いたします。

（了）